

北辰会 第18期同期会 2018年

2018年2月11日

みきじろう
三木次郎

～手作り会場で楽しいひととき 18期同期会～

寒さが緩んで春はすぐそこ、そんな好天に恵まれた2月11日、例年とはちょっと趣向の違った「18期同期会」が開かれ、元気印の同期生25人（女性4人）が集いました。

計測器会社（流量計・温度計等製作販売）を経営する同期生、古城具祐君（前北辰会会長）の50年来の夢「新社屋の建設」が実現、お祝いとお披露目の意味もあって、大阪市北区中津に完成したピカピカ社屋二階の手作り会場での祝宴となりました。

18期同期会はここ数年、母校ゆかりの十三で開くのが通例でした。昨年末の世話人打ち合わせで、「同期会の前に、希望者だけにでも新社屋を見てもらえないか」という古城君の声に「それならいっそ、新社屋でお祝いの同期会を」ということになった次第です。

会費は従来通りで記念品も贈る。とはいっても、現況では同期が一堂に集まるような空きスペースや、調度品は十分な数は確保出来ません。レンタルは無駄と云うことで、俄か仕立ての芝居小屋ではないけれど、仕事場を宴会会場に衣替えする事になりました。

古城家主の指示のもとに、岡田多聞、北村暢夫、佐藤寅夫君ら世話人諸兄が前日から仕事場にある仕掛品やキャビネット等を移動させてスペースを確保して、3mもある長机や短い机を組み合わせ、高さや幅の不揃いは手細工で調節したり、他で調達した椅子を補充するなど見えない苦労が随所に。

当日は、インフルエンザで欠席や遅刻の者もいましたが、手作り同期会は順調に展開しました。最初に北辰会会長でもある岡田君が開会の挨拶。続いて乾杯すると、あとは出前の弁当、飲み放題の酒で楽しいひととき。時間制限のない会場だけに、いつも以上に盛り上がり、校歌「ゆうべの星」で締めくくって、来年の再会を誓って散会しました。（三木次郎）

